

職場体験に向け、VRTを使って 様々な職業があることを知る

東村山市立東村山第四中学校では、2018年から職業レディネス・テスト（VRT）を毎年利用しています。職場体験の前に、世の中にはいろいろな職業があることを生徒に知ってもらうために役立てています。第2学年の担当者である比嘉利奈先生にお話を伺いました。



比嘉 利奈 先生

東村山市立東村山第四中学校
教諭（第2学年）

●生徒が自分の職業興味を知り、 職場体験の職業選びに生かす

VRTを受けるのは2年生です。学年の担当者は毎年変わり、私は今年度から担当になりました。2学年の担当の中から担当者が選ばれ、その担当者が毎年検査の実施を検討しますが、VRTは近年継続して行っています。

1年生では身近な人に職業についてインタビューをします。2年生では職場体験を行い、その職業選びに向けてVRTを行っています。生徒たちも心理検査には興味があるようです。

自治体ごとに職場体験を行う時期は決まっています。東村山市は9月の終わりに行います。体験できる職業は限られた職種（保育園の保育士、高齢者施設、工場、営業職など）ではありませんが、その中から生徒の希望を取ります。少しでも生徒が興味を持てる職業のほうがいいので、生徒の希望を取る前にVRTを行います。そのため判定結果が7月中に出るように6月にVRTを実施しています。

しかし残念ながら、ここ3年間は新型コロナウイルスのため職場体験は実施できていません。そこで今年度は、職業に就いている方を講師として学校に招いて「職場体験もどき」を行う予定です。

●職場体験に向けた職業調べには ウェブサイトも活用

キャリア教育の流れとしては、1年生は身近な人の職業調べ、2年生は職

場体験、3年生は将来の職業につなげていくための進路決定となります。多くは大学進学に向けて高校は普通科を選びます。

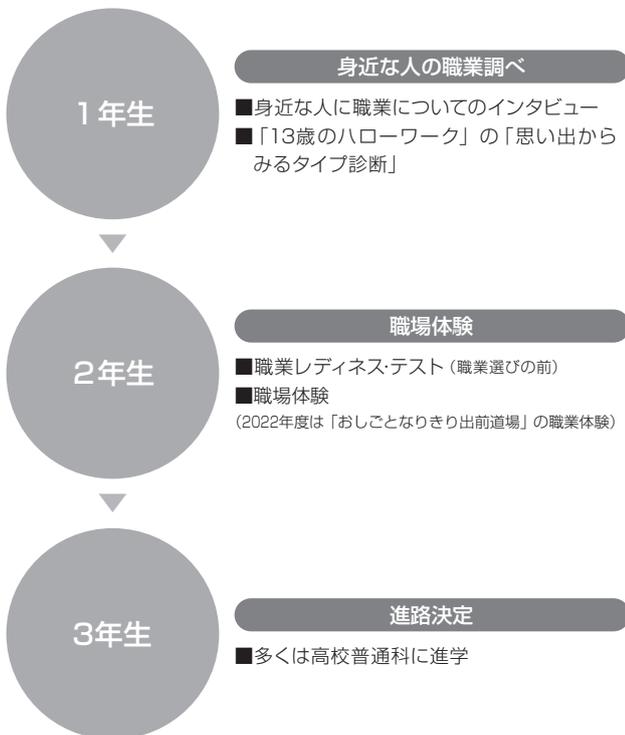
1年時の身近な人の職業調べの後、ウェブサイト「13歳のハローワーク」の「思い出からみるタイプ診断」を行っています。中学生は心理テストが好きですし、去年から一人1台タブレットが配布されたのでウェブサイトも利用しています。小学生の頃を思い出して質問に回答することで、その人のタイプに合った職業分野を見ることができます。小学生の頃の思い出があるので、本人が思っていたとおりの結果が出ることも多いです。例えばスポーツ分野の職業を調べると、スポーツ選手のほかにトレーナーなど様々な

職業があることがわかり、さらにインタビューが載っているので、いろいろな職業があることを知る入り口として使っています。2年生で行うVRTも同様に、これまで聞いたことがないような様々な職業があることを知る入り口として使おうと思っています。

●様々な職業を知る機会として VRTを利用

VRTの実施にあたっては、去年まではハローワークの職員の方が学校に来て、体育館に生徒を集めてワークシート「結果の見方・生かし方」の使い方方を説明していました。今年からは各クラスで担任が指導しながら生徒がメインに行い、時間があればWORK3を

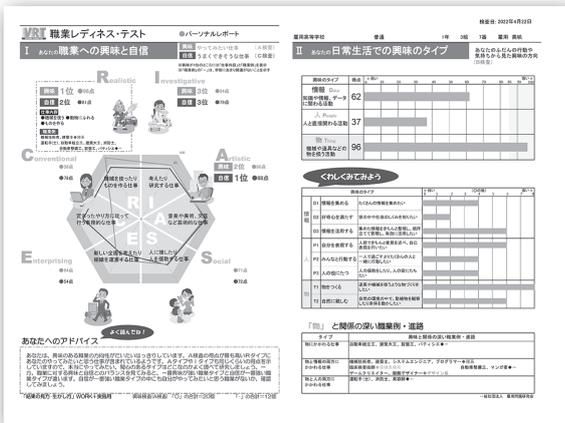
●東村山第四中学校 キャリア教育の流れ





●東村山市立東村山第四中学校
所在地：東京都東村山市野口町3-24-1
創立：昭和38（1963）年
生徒数：505名（2022年4月現在）

●職業レディネス・テスト パーソナルレポート



2も行おうと思います。
今年はこちらから行うので生徒の反応はわかりませんが、以前体育館で行った時の生徒の様子を観察していたところ、自分が希望していた職業とは違う興味領域の得点が高く出ていたりすると、周りの生徒とお互いの情報を共有したり、その後1〜2週間は自分に向いているかもしれない職業について話し合ったりしていました。自分がやりたいと思っていた職業と同じ結果が出たので安心したという生徒もいましたね。中学生なので、あくまでも「こんな職業もあるよ」という紹介という感じで利用しています。
VRTのコンピュータ判定は、「結果の見方・生かし方」のWORKIがそのままパーソナルレポートになって

職場体験を行った4年前で一番多かったのは商業関係で、半分強くらいです。商店街や市内の個人店にお願いして、美容室、タクシー会社、コンビニ店に協力していただきました。市役所には、保育園、高齢者施設、児童館などの地方公務員の仕事をあつ旋していただきました。
今年はおしごととなりきり出前道場（一般社団法人夢らくざプロジェクト）を利用して、10種類の職業について、その職業に就いている人を講師に招いて校内で職場体験を行います。各教室でそれぞれの職業を体験できます。26種類の職業から、生徒の希望を聞いて10種類程度を選んでいるところです。イラストレーターと建築家が最も人気

●職場体験

職場体験で生徒が希望するのは、自分の親の職業やテレビで見たことのある職業が多いですね。実際には学校が用意している事業所から選ぶので、例えば「人に優しく接する職業を希望するのであれば介護職か保育園」「人と接するのが苦手であれば営業職などの商業関係の職業は選ばない」というように決まっています。具体的な職業名というのは生徒からはあまり上がりません。

今年各クラスに置こうと思っているのは「おしごと年鑑」（朝日新聞社）という書籍です。教室に置いてあれば生徒は手に取って見やすいのではないのでしょうか。
この3年間は職場体験が実施できていませんが、今後職場体験が実施できない場合でもVRTは使うと思っています。生徒は、なりたい職業といっても種類が限られているので、いろいろな職業があることを紹介するにはVRTは適していますし、いろいろな職業をただ知るだけではなく、自分の興味に合う職業や潜在的に可能性のある職業を知る機会にもなると思うので、職場体験が実施できない場合でも、VRTは利用価値があると思いますね。

が高く、次いでマジシャン、ファッションデザイナーの希望も多いです。ほかにはネイリスト、メイクアップ・アーティスト、システムエンジニア、シンガーソングライターなどです。
職業を調べるために、以前は「13歳のハローワーク」の書籍を使っていたのですが、ウェブサイトがあることを知って使い始めました。また、100職種くらいの「なるにはブックス」が学校の図書館にあり利用していました。時間が経つにつれて職業の内容が変化していったため、本の内容が現状と合わなくなってくることもあり、頻繁に買い替えるわけにもいかないので、現在はウェブサイトを参照して職業調べを行う方向に移行してきました。